



## ”第68回卒業証書授与式” 『わからない世界』に勇気を持って踏み出そう

1日(火) 第68回卒業証書授与式が厳粛に挙行政され、230名に卒業証書が授与されました。学校長式辞では、「国体をはじめとするスポーツイベントで高校生の活躍・成長が注目された一年であったが、将来、再び国体を開催できる和歌山県で在り続けるために、『一生涯、夢、いまだ途中である』との心意気を持って、これからの和歌山を創生する活躍を期待します」ということと、「誰かが教えてくれる方法に素直に頼れる時代は終わり、これからは、わからないという前提に立ち、自分なりの方法を探しだすことを覚悟すべきである。今、ドアが開かれた『わからない世界』へ勇気を持って一歩踏み出すこと、それが卒業である」ということが述べられました。続いて、御来賓の方々から御祝辞を頂戴しました。



2年生の竹田舜くんが在校生を代表して、先輩への感謝の思いと、一層の活躍を期待する温かいエールとともに、我々、在校生がこれからの耐久高校を引っ張っていく」という決意を込めた送辞を送られました。卒業生代表の細野弘奈さんより「平成25年に入学してから、勉強にスポーツに仲間とともに切磋琢磨し、前向きに頑張ってきたことや学校行事の思い出の数々を吐露するとともに、『世界津波の日』の制定をきっかけにして、本校創設者の濱口梧陵先生の功績と精神を受け継ぎ、これからの社会で活躍していきたい。」と答辞が読まれました。耐久高校での成長が、あらためて実感できました。

締めくくりに、卒業生保護者を代表して狗巻万喜さんから、学校への今までの感謝と立派に卒業していくわが子への愛情を込めた、謝辞が述べられました。

## クラブの更なる充実・発展に向けて、生徒も先生も学ぶ



8日(火)、考査最終日の恒例行事となっている、部活動リーダーを対象とした研修会が開催されました。今回は、本校OBの岡本先生が、生徒会役員だった高校時代の体験談を話してくれました。「携帯電話の使用制限について、今は先生が注意するが、当時は生徒会から全校生徒へ投げかけた」等、生徒の主体制とは、何なのかを訴えました。

森貞昌春先生をお迎えして、教員対象の研修会を持ちました。80名を超えるマンモスクラブの究極の指導方法は「一に勉強、二に勉強、三、四がなく、五にクラブ」、思いもよらぬものと感じた教員が多かったのではないのでしょうか。挨拶や感謝をとことん大事にする指導姿勢等、凡事徹底を痛感した研修となりました。

## もしものために防災スクールの体験

15日(火)、湯浅広川消防組合および和歌山県総合防災課の協力のもと、1年生対象に防災スクールが開催されました。ロープワーク、簡易担架による搬送、119番通報訓練、煙体験、消火訓練、及び起震車による地震体験を、各種目に1クラスずつ分かれて体験しました。「今日の防災スクールで、地震などの災害の恐ろしさ、被害を減らすための訓練の大切さを深く感じました。」「5コース受けた中で一番印象に残ったのは、煙体験でした。普段見慣れている教室が、煙で何も見えなくなって、教室の中に入った時は少し慌ててしまいました」などリアリティあふれる感想が沢山寄せられました。



煙体験

## ”主権者としての振る舞い、政治と選挙”

17日(木)、選挙権年齢の18歳引き下げとなる、今年7月に向けて、高校生に政治・選挙へ関心をもってもらうために、県選挙管理委員会の職員が講師となって、出前講座が開催しました。昨今、若者の政治・選挙離れが懸念されています。社会の担い手となる主権者としての自覚と責任をしっかりと考える機会になったと思います。



## ”今年の活躍と先輩たちの発表”



19日(木) 特別教育活動体験発表会が開催されました。今春卒業した森洋輔さん(有田川町消防署)、荻谷あやめさん(関西学院大) 宮所希純さん(和歌山大)の3名がスーツ姿で凛々しく、3年間の充実した耐久高校生活と進路実現への思いを在校生に語ってくれました。

続いて、アジア・オセアニアフォーラム発表者、高校生サミット in 福島参加者、ビブリオバトル全国大会出場、論文発表代表、部活動及び竹田生徒会長等で今年度活躍した生徒が、次々とその成果を発表してくれました。最後に生徒会長から、「自ら進んでする挨拶が、人生を変える」ということを、全校生徒に訴えました。お世話になった先輩や身近な友人の堂々とした姿を目の当たりにして、自分も変われるとの思いを強く持つことができました。

## 4月の予定

- 5日 離任式
- 8日 始業式・入学式・対面式
- 11日 23年宿題考査・新歓クラブ紹介
- 12日 23年宿題考査・身体測定
- 27・28日 1年ロンハイ
- 28日 2, 3年遠足



## ”アメリカ姉妹校短期留学” 異文化との遭遇”

米国の姉妹校ケンブリッジ・アイサンティ高校へ向けて、13日(日)に関西空港から、元気よく出発した20名の留学団(引率教諭2名)が、15日間の日程を終了して27日(日)に全員元気よく帰国しました。参加した生徒たちは「最高の日々だった」「留学期間がとても短く感じた」「留学してよかった」と、皆大満足で帰路につきました。